

NIPPON SCOUT JAMBOREE NEWS

CHALLENGE!

Vol.3



まだ知らない 自分に 会いに行こう！

昨日から本格的なプログラムが始まりました。自然の中で新しいことに挑戦し、仲間と力を合わせ、世界中のスカウトと交流する。そして、平和について学び、未来への思いを深める時間も、このジャンボリーならではの大切な体験です。ひとつの挑戦が、まだ知らない自分との出会いへとつながっていきます。

Discover a New You.



そなえよつねに
ボーイスカウト



まだ知らない自分に、会いに行こう! CHALLENGE!

いよいよ19NSJのプログラムが本格的にスタートしました。自然の中で体を動かし、新しい技術に挑戦し、仲間と協力しながら課題を乗り越えるー。アマチュア無線によるピースメッセージの発信や被爆者の体験を聞くプログラム、広島市の原爆ドームを訪れる場外プログラムなど、平和について学び、考える時間も、このジャンボリーならではの大切な体験です。



広島ピースプログラム ～1日目～

広島ピースプログラム1日目は、全国47都道府県と、オーストラリア・カナダ・台湾・イタリア・韓国・アメリカ・イギリスの代表スカウトが、広島市にある原爆ドームを見学。スカウトたちが地元から用意・持参してきた折り鶴を奉納し、平和を祈りました。また広島平和記念資料館では、原爆によって人や街がどうなったのか、様々な視点から学ぶことができました。明日は平和記念式典に代表スカウト全員で参加します！





風を切って海を越えよう！ しまなみサイクリング旅

青く澄み渡る瀬戸内海と、空へ伸びる大きな橋！場外プログラムとして開催された「しまなみ海道1泊2日のサイクリング 海を越え心をつなぐ～瀬戸内海の歴史と芸術に出会う旅～」にスカウトたちが挑戦しました！

スタートしてすぐに立ちはだかる来島海峡第三大橋の上から見下ろす瀬戸内海の絶景は圧巻の一言。潮風を全身に浴びて走り抜ける疾走感に、スカウトたちの顔には眩しい笑顔が弾けます！海沿いの道では波打ち際で足を海につけて涼むなど、瀬戸内の自然を全身で満喫しました。

道中では「ようみバラ公園」「村上海賊ミュージアム」「大三島美術館」などのチェックポイントで歴史や



地域の魅力に触れ、しまなみの島々をより身近に感じたほか、休憩時には他県のスカウトとどこから来たのかを話し合うなど、たわいのない会話を通して自然に交流を深める姿が見られました。

瀬戸内の潮風とともに走り抜けたスカウトたちは、しまなみで得た達成感を胸に、神石高原でのさらなるプログラムに挑戦を続けます



声で繋げるPeace ～アマチュア無線体験プログラム～

こと座エリアのアマチュア無線体験プログラム(提供:日本ボーイスカウトアマチュア無線クラブ)で8月5日、平和を記念したイベントが行われました。無線機器メーカー、アイコム株式会社の協力もあり実現したこのイベントには多くのスカウトが参加しました。19NSJの開催地、広島に原爆がおとされてから今日で81年。「広島平和記念日」という特別な日を前に、スカウトたちが平和のメッセージを電波に乗せて届けました。

イベントは神石高原を飛び出し全国、また海外との交信を目指して行われ、スカウトは交信の最後に、相手と平和を意味する「Peace」という言葉を掛け合いました。

かつて多くの人々の声が一瞬にして奪われたこの場所から今、私たちは電波を通して誰かと声を繋ぐことができます。遠く離れた場所においても、平和への想いは同じ。スカウトたちは無線体験を通してこのことを再確認できたことでしょう。一人一人の小さな声が集まり、平和を未来に繋げる大きな声になることを願っています。

神石高原で向き合う、 ヒロシマの真実

「あらためて19NSJで考える平和と教育」プログラム(提供:広島県原爆被害者団体協議会)ではスカウト達が足を止め、原爆の被害に静かに向き合いました。

ブースに立つ女性は、自身の両親が被爆者であることを明かしました。母親は、差別や負い目により、自身が被爆していることを子供に明かせなかったそうです。その沈黙を越えて語られた言葉に、スカウトたちは真剣な眼差しで聞き入っていました。

展示内容は、黒焦げになった遺体の写真や、水を求めて川へ向かう人々を描いた絵など、当時の凄惨さをありのままに伝えるものです。展示を見た小学6年生のスカウトは、真っ黒になった遺体の写真や、原爆症が遺伝する不安についての事実を知り、「しんどくなりました」と率直な戸惑いを語ってくれました。また、中学2年生のスカウトは『父を返せ、母を返せ』という詩を読み、「僕たちと同じ年代で家族を失ったのだと想像すると、その言葉の重みが計り知れない」と、自分たちの日常と重ねて真剣に考えていました。平和についてどう思うか尋ねると、「うまく言えない」と悩みながらも、「二度と同じことが起きないよう、僕たちも考えていきたい」と答えてくれました。

展示や語り部の方の話に触れたこの時間は、参加したスカウト一人ひとりにとって、平和の尊さを改めて考えるきっかけとなりました。



プログラム協力



広島県被団協

unicef

for every child



JAPAN FOR
UNHCR
国連UNHCR協会



peace winds



世界が進むチカラになる。





JAMBOREE IN PICTURES

Every Challenge Has a Story.

一つひとつの挑戦が、未来につながる。



スカウト通信員が始動！

記者としてジャンボリーの様子をお伝えする「スカウト通信員」の活動が、8月5日から始まりました。

まずは広報部員から、取材の心得やカメラの使い方をレクチャー。初めて手にする大きなカメラに、思わず笑顔がこぼれる場面もありました。その後、通信員たちはサブキャンプや派遣団本部などで取材を行い、記事にまとめ、掲載する写真を真剣な表情で選んでいました。

そんなスカウト通信員の記事をご紹介します。

参加方法 日時:8月6日(土)、8日(土)、9日(日) 13:30～16:30 ※最終受付15:00
場所:本部会議所にて(8日は本部会議所よこ)



後藤大稀 スカウト通信員(三重県)

待ちに待ったジャンボリーが始まりました。
僕たちは、三重連盟、長野連盟の皆さんに取材をしました。三重連盟では4人の派遣団本部でみんなの無事を祈っていること、三重は雰囲気がとてもいいことなど、スカウトではわからない事をたくさん教えてもらいました。
次は、三重連盟の隣にある長野連盟に取材をしました。長野県はとても大きいので、一か所に集まっていくのは大変ということで名古屋駅集合＆解散にしているのに驚きました。
また、体力を落とさない、暑さになれるために岡山市のホテルで前泊してから会場に来たことにも驚きました。このジャンボリーはたくさんの人の協力があってこそのもので、皆さんも日々感謝を忘れずに一日一日を楽しく過ごしていきましょう！



店村知典 スカウト通信員(千葉県)

8月5日、きずなサブキャンプの丘の上にそびえ立つテントサイトを発見した。テントサイトを丘の上に設営していたのは東京14隊のベンチャー班だった。
くわしいことを聞くためにベンチャー班の一人に取材にしたところ、テントサイトを設営しているときに使える土地が狭くサイトを充分に建てることできないことに気がつき、丘の上の広い土地を利用して設営しようとしたと決めた、と丘の上にテントサイトを設営した理由を説明してくれた。そして丘の上にテントサイトがあると登り下りがとても足を使い一回往復するだけでも汗をとってもかき苦労していると説明してくれた。
ほかにも様々なエピソードや話を話してくれて東京14隊の社交的な雰囲気がうかがえた。



本日の
スカウト川柳

暑いけど とても楽しい ジャンボリー! 伊藤寧々(大阪府)
ロケットが 明日へと挑戦 飛んでいく 櫻井晴仁(三重県)
ジャンボリー 思い作ろう この夏に 田中晴大(三重県)

スカウト通信員には、スカウトなら誰でも予約不要で参加できます。
1人でも、班単位でも、ちょっと興味があるという人も大歓迎!皆さんの参加をお待ちしています。
そして、記事とあわせて「スカウト川柳」も募集中です!
ジャンボリーの最後にはMVPが決まる・・・かも!?力作、珍作、どしどしご応募ください。

神石の恵みを召し上げれ! こだわり抜いた 「一生モノの食卓」



神石牛を受け取ったオーストラリアのスカウト

スカウトたちの元気の源を支える配給・食堂部。今回の献立を手がけた松林さんは、2年前から道の駅などを自ら巡り、地元の食材を徹底的にリサーチしてきました。「一生に一度のジャンボリーを、食でも思い出深いものにしたい」という熱い想いが、こだわりのメニューに詰まっています。
5日の夕食には贅沢な「神石牛」、7日のカレーには「神石高原ポーク」と特産の「水餃子」が登場。6日の焼きそばは、広島らしさを目でも楽しめるよう、広島東洋カープのイラスト入りパッケージで届けられます。また、お米は100%「神石高原米」を採用。水を節約するために、利便性の高い5合ずつの無洗米真空パックで用意されました。
「地元の食材で作る食事を囲み、最高の1日を楽しく振り返ってほしい」と語る松林さん。神石高原の豊かな恵みが、みんなの挑戦を力強く支えます!

Welcome to 19NSJ 世界の仲間を迎えて

8月5日午前11時、神石高原ティアガルテン管理棟にて三毛兼承大会長が主催するレセプションが開催されました。会場には、アメリカ、イギリス、イタリア、カナダ、韓国、台湾、オーストラリアの海外派遣団代表をはじめ、日本全国47都道府県から集まったスカウト関係者が一堂に会しました。

冒頭、主催者を代表して三毛大会長が挨拶に立ち、大会の運営を支えるすべての人々への深い感謝を述べました。続いて、開催地を代表して入江嘉則神石高原町長より、スカウトたちを温かく迎え入れる歓迎の言葉が贈られました。

式典では、遠路はるばる参加した海外派遣団へ感謝の盾が贈呈され、三毛大会長と各国代表が笑顔で交流を深める場面が見られました。

また、公益のため私財を寄附したことにより、国から紺綬褒章が授与されたボーイスカウト日本連盟の元理事である井上義雄氏に、その伝達式が行われ、会場は大きな拍手に包まれました。

参加者は国境や立場を越えたつながりを確認し、大会の成功に向けた決意を新たにす貴重なひとときを過ごしました。



—— 熊本に僕たちができること ——

空が暗くなると各地のキャンプサイトで参加隊同士による交流会があちらこちらで見られました。このうちきずなサブキャンプの広島と埼玉の参加隊が行った交流会では会の冒頭、隊長がスカウトたちに熊本の地震が起こったことに対して自分たちがどんなことができるか考え、話し合おうと呼びかけました。スカウトたちは、いま神石高原でジャンボリーに参加できていることに感謝した上で被災地・熊本に想いをこめて、『物資を送る』『募金を呼びかける』などいまの自分たちに出来ることを話しました。



JAMBOREE VOICE

「やってみよう!」と思って一步踏み出したその瞬間から、新しい挑戦が始まります。
小さなチャレンジも、大きなチャレンジ也大歓迎!
あなたの「Challenge!」を聞かせてください。

ホワイトボードを持った取材班を見つけたら、ぜひ参加を!!

今回のテーマ: 「私のChallenge!」



明日取材の(8/8 発行予定)ボイステーマ「見つけた『すごい!』」

BEHIND THE SCENES

ジャンボリーを支える運営スタッフのお仕事

配給・食堂部

みんなの元気の源になる食材や、燃料を届けています。スタッフ食堂の運営もここ。美味しい食事とエネルギーを供給し、ジャンボリーの活動をパワフルに続けられるよう支えてくれるチームです!



美味しい食材をたっぷり用意しているので、しっかり残さず食べてください!



配給・食堂部長
二宮 雄一さん



サブキャンプは協力の場です。みんなで協力して素晴らしいジャンボリーにしましょう!

サブキャンプ部

「おはよう」から「おやすみ」まで、みんなを一番近くで支える存在です。サイトでの困りごと相談や施設の点検、忘れ物の対応など、安全で快適なキャンプ生活を24時間体制でしっかりサポートしています。



サブキャンプ部長
藤原 健資さん

JAMBOREE LIFE

Vol.3

外国スカウトと 話してみよう！

海外スカウトも、きっと
新しい友達をつくりたいと思っています。
大切なのは笑顔と「話しかけてみよう！」
という勇気だよ！

① あいさつしよう！

Hello!

Hello!
(こんにちは！)
まずは笑顔であいさつ
最初のひとことが、
新しい友情の始まりです

② 名前を聞いてみよう

What's your name?

What's your name?
(名前は？)
名前が分かれば、
ぐっと距離が近づきます

③ 出身を聞いてみよう

Where are you from?

Where are you from?
(どこから来たの？)
国や地域の話は、
会話が広がる
きっかけになります

④ ジャンボリーらしい話題で！

I like your neckerchief!

I like your neckerchief!
(そのネッカチーフ
すてきだね！)
「すてきだね！」
は世界共通の合言葉です

⑤ 思い出を残そう！

Can we take a photo together?

Can we take a photo together?
(一緒に写真を
撮ってもいい？)
友達との一枚は、
一生の宝物になります。

ワンポイント！

笑顔は世界共通のことば！
言葉が分からなくても、
笑顔やジェスチャーがあれば
気持ちは伝わります。
恥ずかしがらずに、
一歩踏み出してみよう！

最後はこれ！

Thank you!
(ありがとう！)
See you!
(またね！)

ジェスチャーも大切！

笑顔、うなずき、拍手、
親指を立てる「Good!」など、
ジェスチャーも
世界中で伝わる
大切な
コミュニケーション！

令和8年熊本地震

被災地へ、私たちにできることを。

令和8年熊本地震の被災地を支援するため、第19回日本スカウトジャンボリーでは募金活動を実施します。地域プログラムでの街頭募金や会場内の募金箱を通じて、被災地へ支援を届けます。

8/5水
募金総額

13,709円

みなさんのご協力を
よろしくお願いします

神石高原町 住民票

神石高原町に思い出を
作りに来たスカウト、見学に来た皆さん！

大会期間中、特別に「神石高原町サポーター住民票」を
発行します！

この住民票は、神石高原町とスカウト皆さんとのつながりを形にする記念証です。

19NSJが終わっても神石高原町の素晴らしい思い出、地域住民との繋がりを忘れないために最高の1枚を作っちゃいましょう!!

発行はスカウトセンターの神石高原町ブースで行います。ブースでは神石高原町の魅力も紹介!! また、先着1000名には追加の記念品もあります。

班のみんなで作った住民票を使って写真を撮って思い出を作ってみてはいかがですか

「神石高原町とつながった証」をぜひ受け取ってください!!



DISCOVER JINSEKIKOGEN

ジャンボリーの舞台・神石高原町には、豊かな自然やおいしい特産品、地域の人たちが大切に受け継いできた文化など、たくさんの魅力があります。このコーナーでは、毎号ひとつずつ神石高原の「宝もの」を紹介します。

星空 静寂の中で見上げる星空は、 圧倒的な美しさ

ジャンボリー会場は標高約700mに位置し、澄んだ空気に包まれているため夜になると降り注ぐような満天の星空が広がります。天気がいい日には天の川や季節の星座をはっきりと観察できます。大会ワッペンにも表現された「天空のキャンプ場」という言葉通り、静寂の中で見上げる星空は、都会では味わえない圧倒的な美しさで私たちを包み込んでくれます。一日の活動を終えた夜、仲間と一緒に夜空を見上げ、神石高原町ならではの輝きを心に刻んでみてください。



安全・警備部 からのお願い

自分の力で、 仲間と一緒にご安全に！

一人ひとりが周りの危険に気付き、仲間と声を掛け合うことが大切です。そのため、各班には「安全係」を置きます。安全係は班のみんなの安全を一人で守る人ではなく、危険に気付くきっかけをつくる役目です。大切なのは、班全員が「危ないことはないかな」と考えながら行動できるように工夫することです。

ジャンボリーでは、慣れない場所や普段と違う活動が多く、思わぬ事故につながる場合があります。安全係は、活動前や移動前に班のみんなと周囲を見回し、「危険はないか」「安全に行動できるか」を確認しましょう。見るポイント例を四つ紹介します。

- ①足元に石やロープ、ぬかるみはないか。
- ②頭上に落ちてきそうな枝や荷物はないか。
- ③周りに走っている人や危険な道具の使い方
をしている人はいないか。
- ④天候や暑さ、時間帯の変化はないか。

「大丈夫だろう」ではなく、「もし転んだら」「もし落ちてきたら」と一歩先を想像することが危険予知の基本です。気付いたことは一人で判断せず、班のみんなや指導者に伝え、安全な方法を選びましょう。班全員で危険を予知し、安全に活動することが、楽しく充実したジャンボリーへの第一歩です。



中央救護所 からのお知らせ

▶今、増えているのは…

引き続き、熱中症・脱水症、 ブユによる虫刺され

飲水時間・飲水量を確実に確保しましょう。
ブユ対策には、露出を避ける服装、防虫対策を徹底しましょう。

▶今後予想されるのは 食中毒

日中は炎天下になりますので、食料の管理に注意しましょう。

特に昼食は事前に行動食が配給されているかと思いますが、2時間以上暑いところに放置しないよう管理しましょう。

(参考)WHO「食品をより安全にするための5つの鍵マニュアル」

Key1「清潔に保つ」

手洗いは必ずしましょう

Key2「生の食品と加熱済みの食品を分ける」

保管も別容器で保存しましょう

Key3「よく加熱する」

70℃以上に加熱しましょう

Key4「安全な温度に保つ」

食品を2時間以上放置しないようにしましょう

Key5「安全な水と原材料を使う」

安全な水、新鮮・良質な食品を選びましょう

2026年8月6日(木) 神石高原町の天気・気温

8/7(金) 8/8(土) 8/9(日) 8/10(月) 8/11(火) 8/12(水)

31	31	29	30	31	32
最高気温(°C)					
23	22	21	21	21	20
最低気温(°C)					

気象予報士 さんちゃんのお天気メモ

暑い日が続いていますが、予想図を見ると気になるのが「台風」の存在です。沖縄直撃に加えて、その先で進路を北寄りに変え、九州に近づく可能性が指摘されています。この13号に加えて14号、15号が連続して発生。台風が1,000km以内に近づく複雑な動きをすることがあります。(藤原の効果)週末が来る前に、しっかりと点検をしておきたいですね

協賛企業

Platinum Sponsor



世界が進むチカラになる。

Gold Sponsor



Silver Sponsor



Bronze Sponsor



Official Supplier



株式会社ウェザーマップ／オタフクホールディングス株式会社／株式会社森岡商店

第19回日本スカウトジャンボリーは、2026年度日本万国博覧会記念基金の助成事業として実施いたします

